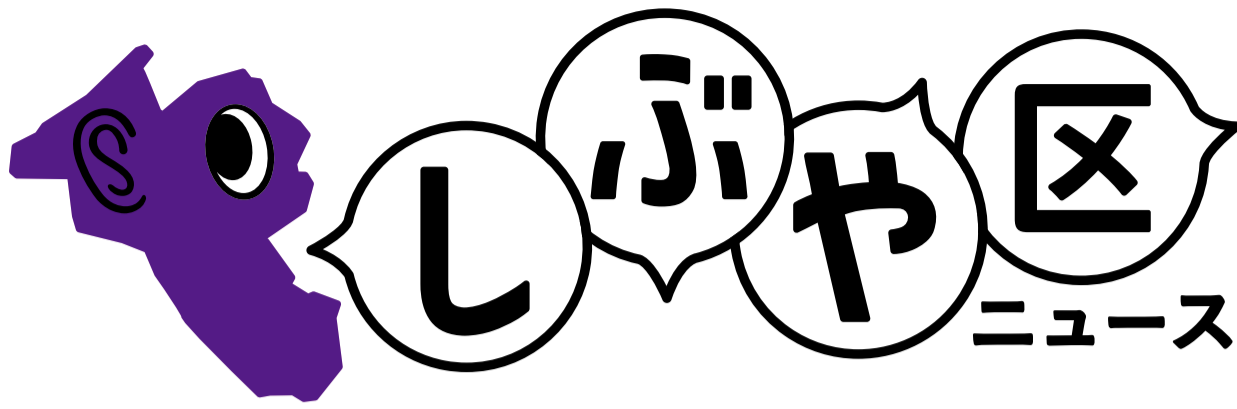


障がい者が安心して暮らす社会を目指す、21団体の輪。

令和4年 (2022年) 11月1日 No. 1504



発行 | 渋谷区
編集 | 広報コミュニケーション課
所在地 | 〒150-8010 宇田川町1-1
電話 | 03-3463-1211 (代表)

区SNS



City News
SHIBUYA

English-language
newsletter



Catalog Pocket

This paper is available
to read and listen to in
10 languages.



渋谷区障害者団体連合会 会長・本田道子さん

※インタビュー時は、マスクを着用、換気、身体的距離の確保を徹底し、感染対策を行いました。撮影時のみ、マスクを外して撮影しました。掲載情報は新型コロナウイルス感染症の影響により、変更となる場合があります。

渋谷区障害者団体連合会と考える、これからの福祉。

4 | 新型コロナワクチンに
5 | 関するお知らせ ほか

6 | 11月11日は介護の日
8 | ほか

9 | 区営住宅などの
11 | 入居者募集 ほか

ちがいを ちからに 変える街。渋谷区

渋谷区は令和4年10月1日に区制施行90周年を迎えました。



関心を寄せ、“ちがい”を知る。人への思いこそが福祉の力。

渋谷のラジオで
出張インタビュー

渋谷区障害者団体連合会 会長の本田道子さんに、普段の活動と、2大イベントである運動会および作品展の魅力、障がい者福祉の課題や展望について伺いました。



運動会や作品展は
毎年とても盛り上がりです。
障がいがある人たちに
ぜひ、関心を
寄せてください。

渋谷区障害者団体連合会 会長
ほんだ みちこ
本田道子さん

障がい児を育てながら、福祉職一筋

—— 本田さんの経歴についてお聞かせください。

本田: 子どもの頃から福祉の仕事をするのが夢で、福祉系の学校に進み、23区内の区役所で高齢者事業課や女性相談員、障がい者福祉課と経験を積み、定年まで勤めました。私自身、障がいがある家族と共に渋谷で暮らしてきたこともあり、定年後はお世話になっている地域のお役に立ちたいと思い、渋谷区や東京都などの福祉関連のお手伝いをしながら、渋谷区障害者団体連合会（以下、渋障連）にもつながりました。副会長を8年ほど務め、今年度より会長に就任しました。

—— 福祉の道を志したきっかけを教えてください。

本田: 私が生まれ育った地域は、当時貧困家庭が多く、小さい頃から世の中の不条理をたくさん見聞きました。小学5年生の時には、仲のいい友達が家庭の事情で学校に来られなくなり、子どもながらに「なんで!?!」と思いました。自分が大人になったら、子どもたちにこのようなつらい思いをさせたくない、福祉の道を志すようになりました。障がい児を抱えながらの勤務は大変でしたが、障がいをオープンにしたことで職場の理解を得て、大好きな仕事を続けることができました。本当に感謝しています。

—— 渋障連とは、どのような組織なのでしょう。

本田: 障がい者が安心して暮らせる社会を目指し、区内の21の障がい者団体がつながる緩やかなネットワークで、今年で発足36年目を迎えます。障がい者団体と言っても、身体・知的・精神などさまざまな団体があり、作業所や家族の会も含まれます。私たちは各団体が抱える課題をまとめて渋谷区や区議会に要望書を提出したり、地域に向けて障がい理解の啓発活動を行ったりするほか、パソコン・スマートフォン教室などの福祉講座、レクリエーション、イベントなども企

画・開催しています。中でも「かがやこ愛と希望の運動会」と「どきどきときめき展」は、渋障連の2大イベント。毎年とても盛り上がるんですよ。

応援や「いいね!」が障がい者の大きな自信に

—— 「かがやこ愛と希望の運動会」について教えてください。

本田: 今年で37回目を迎え、渋障連が立ち上がるきっかけとなったイベントです。もともとは、区内に住む身体障がい者の人たちが「自分たちも運動会に参加したい!」と始めたもので、そこで培われた結束力を生かして渋障連が立ち上がりました。障害者団体連合会は全国各地にありますが、運動会から発足したというのはとても珍しいケースだと思います。運動会には毎年多くの企業や団体からご支援・応援の声をいただいております。ボランティアの皆さんも含めると総勢700人ほどが集まるんです。障がい者本人・家族の皆さんだけでなく、地域の民生・児童委員やスポーツ関連団体、ボランティアの皆さんに力を貸していただいています。今まで2年間はコロナでお休みしましたが、今年はコロナ対策として規模を縮小し、午前と午後の二部制で行う予定です。みんなとても張り切っている、きっと盛り上がると思いますよ。

—— 運動会の魅力はどんなところにありますか。

本田: 最初に全員参加のバンとり競走をやるのが恒例なんです。製パン企業さんが毎年パンを提供してくださるので、子どもも大人も、障がいがある人もない人も、まずはみんなでパンを食べて腹ごしらえ(笑)。この和やかな雰囲気が、渋障連らしさかもしれません。リレーや玉入れ、大玉転がしなど競技は一般の運動会とほぼ同じですが、車いすを押してもらったり、手をつないでゆっくり歩いたり、障がいの程度に合わせて、無理なく楽しめるのが魅力です。

—— 「どきどきときめき展」は、どのような作品展なのでしょう。

本田: 今年で30回目を迎えるイベントで、自分で作れるものなら何でもありの自由な作品展です。展示作品数は160点以上あり、絵、写真、立体作品、編み物、習字、壁画など、個性あふれる力作ばかり。複数人で力を合わせて大きな作品を展示される団体もあります。前は、たくさんのカラフルなだるまを制作した団体や、今年の干支にかけて、かわいらしい虎のぬいぐるみを制作した団体もありました。どの作品も素晴らしく、目の前にすると、感激のあまり涙してしまうほどです。過去の作品は渋障連のHPでも公開していますので、ぜひ、ご覧ください。

—— 会場展示のほか、ネット展示も開催されるのです。

本田: コロナ禍を機に始めたネット展示は大反響をいただいております。皆さんから寄せられるたくさんのコメントや「いいね!」が、出展者の自信につながっています。優秀作品の表彰もあり、作品展が終わるとすぐに来年に向けて制作を始めるグループもいるほど、モチベーションの高いイベントです。今年は一部の作品が「SHIBUYAみんながつながるインクルーシブアート・プロジェクト」として、都営バス営業

所(東2丁目)の壁面を彩ります。こちらでもぜひ、多くの人に見ていただきたいですね。

人材不足と防災が課題。地域の力が必要

—— 現在、渋障連で課題として挙げられていることはありますか。

本田: 大きな課題として、障がい者の高齢化と福祉職の人材不足が挙げられます。高齢化に伴い、適切な施設や支援者の人数を増やすことができているかという、なかなか進んでいない現状があります。福祉職は給与面などの条件が厳しく、3年以内に多くの人が辞めてしまい、次世代がなかなか育たないという課題を抱えています。支援のスキルは経験を重ね、人間関係を深めてこそ高めることができますが、この「3年の壁」は全国共通の課題となってしまっています。また、障がい者の防災対策にも心を砕いているところです。東日本大震災の時、障がい者の死亡率の高さが浮き彫りになりましたが、災害時に手を差し伸べてくれる人が身近にいないと、障がい者は安心して暮らすことができません。防災という観点からも、今後は地域との接点をさらに増やし、ご協力をお願いしていきたいと考えています。

—— 障がいがある人もない人も、共に暮らしていくために大切なことは何でしょうか。

本田: 渋谷区は基本構想に「ちがいを ちからに 変える街。」という未来像を掲げていますが、「ちがい」を「ちから」に変えるためには、「ちがい」を知ることが必要だと思います。そのためには、まず自分の身近な隣の人に関心を持つことです。隣の人に関心を抱き、その人のことを知ればその人への思いが生まれます。思いが優しさとなり、福祉の力になっていくのではないのでしょうか。

—— 障がいに対して関心を持ち、「ちがい」を知ることが大切なのです。

本田: 障がいがある人とならない人だけでなく、障がい者同士でも、お互いの「ちがい」をよく知らないということがあります。まずは団体内でお互いの障がいの「ちがい」を知り、それを地域の皆さんへ伝えていけるような活動をしていきたいです。生きている限り、誰でも障がい者になる可能性があり、もしかしたらそれは明日かもしれない。そう考えると、障がいに対して無関心ではいられないはずです。障がい者にとって暮らしやすい街を作ることは、誰にとっても暮らしやすい街を作ることにつながりますので、多くの人に関心を持っていただきたいと思います。

—— 区民の皆さんにメッセージをお願いします。

本田: もし障がいがある人がいて困っていたら、「何かお手伝いしましょうか?」と気軽に声を掛けていただけたらうれしいです。たとえ手を差し伸べられなくても、目線で「頑張ってるね」「応援してるよ」とエールを送れば、相手に必ず伝わります。優しさや応援という温かなエネルギーが、「ちがいを ちからに 変える」原動力になっていくと思います。運動会や作品展など、きっかけは何でもいいですから、ぜひ、私たち渋障連のことを知り、障がいがある人に関心を寄せていただきたいです。



▲ 200メートルに及ぶフェンスを総勢250人の作品が彩る「SHIBUYAみんながつながるインクルーシブアート・プロジェクト」。11月7日に完成披露式典が予定されている。手のイラストは「I love you」を意味する手話

渋谷区障害者団体連合会とは

渋谷区障害者団体連合会(略称:渋障連)は「自助、共助、そして公助」を理念に掲げ、昭和62年に創立されました。渋谷区を拠点とする身体・知的・精神の障がい者団体が加盟しています。ひがし健康プラザ(東3-14-13)に事務局を構え、関係機関と連携を取りながら、福祉の向上を目指す活動を行なっています。

渋谷区障害者団体連合会運動会 「かがやこ愛と希望の運動会」を開催します



11月23日に渋谷区障害者団体連合会が主催する「かがやこ愛と希望の運動会」を3年ぶりに開催します。新型コロナウイルス感染対策のため、午前と午後の二部制で、人数を縮小して実施します。詳しくは、渋谷区障害者団体連合会事務局までお問い合わせください。

日時 11月23日(水・祝) 9:30~15:00
場所 スポーツセンター(西原1-40-18)
内容 車いす競技、紅白玉入れ、バンとり競走など

第30回どきどきときめき展を開催します



12月1日から5日までの5日間、渋谷区文化総合センター大和田2階のギャラリー大和田にて、障がいがある人々による作品を展示する「どきどきときめき展」を開催します。12月13日から令和5年1月28日にかけて、ネット展示も実施します。詳しくは、渋谷区障害者団体連合会HPをご覧ください。

☎ 渋谷区障害者団体連合会事務局
☎ 03-6427-3650 ☎ 03-6427-6566

渋谷区障害者団体
連合会HP▶



📺 本田さんへのインタビューは
11月1・8日に「渋谷の星」で
放送します。



バックナンバーはこちら▶



☎ 広報コミュニケーション課広報係 (☎03-3463-1287 ☎03-5458-4920)

渋谷区の番組を放送中です

ラジオしぶや区ニュース
月~木 11:00/16:00/21:50(10分間)
「しぶや区ニュース」の情報を発信します。

渋谷いきいき倶楽部
月~金 13:00/16:30(30分間)
シニアの皆さんを応援する番組です。

渋谷の星
火 11:15(45分間)
渋谷区で活躍する人たちが登場します。

渋谷のくらし
金 16:00(30分間)
地域の催しなどの様子を伝えます。

ラジオしぶや区ニュース(区長の部屋)
金 11:00/17:00/19:50(10分間)
長谷部区長が出演します。
(ラジオしぶや区ニュースの内容になる場合があります)



「しぶや区ニュース」では毎月、「渋谷のラジオ」と連動したページを掲載。「しぶや区ニュース」と「渋谷のラジオ」が連携して、人と人のつながりが広がる紙面を届けています。



周波数: 87.6MHz FM
☆公式アプリ(iOS・Android)でも聴取可能
所在地 | 渋谷3-22-11 サンクスプライムビル1階 TEL | 03-6712-6876
FAX | 03-5778-9620 E-MAIL | info@shiburadi.com HP | shiburadi.com/